

平成30年度 第1四半期（4月～6月）

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 中小企業相談所

調査概要

- 調査対象
(1)対象地区：豊橋市内
(2)対象企業数：350社
(3)回答企業数：178社（回答率50.86%）
- 調査期間
平成30年4～6月
- 調査方法
往復ハガキによるアンケート調査
- 回答企業の内訳
製造業84・建設業26・卸売業21
小売業19・運輸業12・サービス業16

全産業業況DI値は前回調査から1.2ポイント悪化、平成29年度第1四半期からは2.4ポイント悪化

■全業種概要

全産業の総合判断DI値は▲5.7となり、前回調査（▲4.5）から1.2ポイント悪化。平成29年度第1四半期（▲3.3）からは2.4ポイント悪化した。

来期見通し（7月～9月）については、業況DI値は▲11.6となり、前回調査（▲5.9）から5.7ポイント悪化。平成29年度第1四半期（0.0）からは11.6ポイント悪化が予測されている。

全業種において「従業員の確保難」が経営上の問題点の上位を依然として占めており、新規人材の確保のみならず、既存従業員の定着にも苦慮しているとの声が聞かれた。また、原油などの原材料価格の上昇によって収益を圧迫しており、主に自動車、鉄鋼、非鉄金属の製造業が影響を受け、来期見通しの悪化につながっている。

■製造業

業況DI値は▲1.2となり、前回調査（10.7）から11.9ポイント悪化、平成29年度第1四半期（13.6）から14.8ポイント悪化した。

自動車製造業では、工場の海外移転に伴い原材料の現地調達が増速し、国内企業に対する受注が減少しているとの声が聞かれた。

来期見通しについて、印刷業では、さらに価格競争が激しくなり収益を圧迫していくのではとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「従業員の確保難」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

■建設業

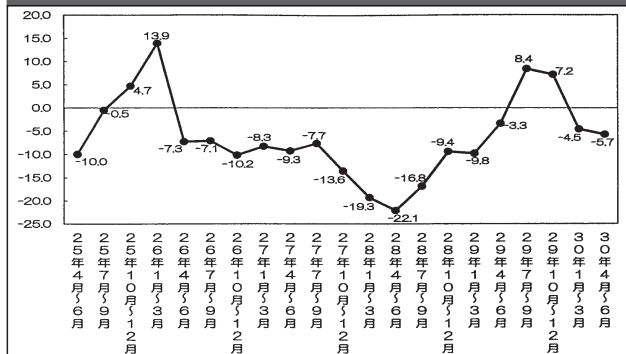
業況DI値は0.0となり、前回調査（0.0）から横ばい、平成29年度第1四半期（▲12.0）から12.0ポイント改善した。

DI値は横ばいだが、公共工事と民間工事の両方で受注が減少し、全体的には仕事量が減少しているとの声が聞かれた。

来期見通しについて、請負単価が上昇せず、利益の確保が難しいとの声や求人を出しても人材が集まらず先行きを懸念しているとの声も聞かれた。

経営上の問題点としては、「官公庁需要の停滞」、「従業員の確保難」、「民間需要の停滞」が主に挙げられる。

全業種



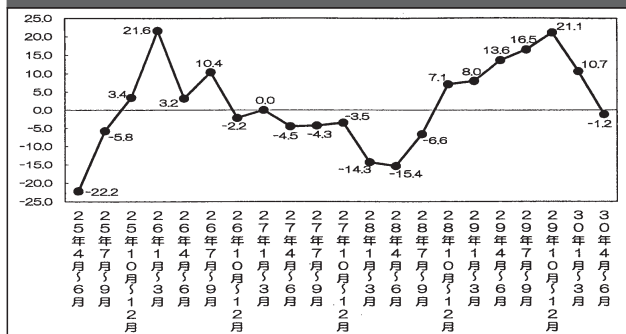
《A》 前年同期（平成29年4月～6月）と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI値	
18.2%	58.0%	23.9%	▲5.7	↓

《B》 来期（平成30年7月～9月）の景況見通し

良い	同様	悪い	DI値	
12.7%	63.0%	24.3%	▲11.6	↓

製造業



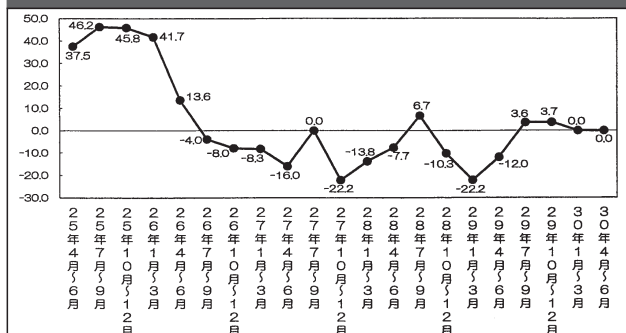
【今期の景況】 平成30年4～6月

業況	▲1.2	↓
----	------	---

【来期見通し】 平成30年7～9月

業況	▲7.3	↓
----	------	---

建設業



【今期の景況】 平成30年4～6月

業況	0.0	↑
----	-----	---

【来期見通し】 平成30年7～9月

業況	▲23.1	↑
----	-------	---

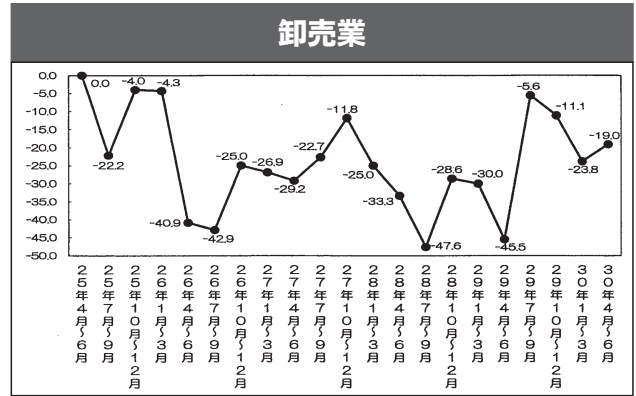
■卸売業

業況DI値は▲19.0となり、前回調査（▲23.8）から4.8ポイント改善、平成29年度第1四半期（▲45.5）から26.5ポイント改善した。

目立った天候不順もなく、食品や建築材料で計画的に利益を得ることができDI値は改善したものの、原油関連の卸売業では、仕入れ価格の上昇によって売上が伸び悩んでいるとの声が聞かれた。

来期見通しについて、内装資材卸売業では、人件費・経費の上昇で収益が見込めないとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「需要の停滞」、「販売価格の低下・上昇難」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成30年4～6月

業況 ▲19.0 ↑

【来期見通し】平成30年7～9月

業況 ▲15.0 ↑

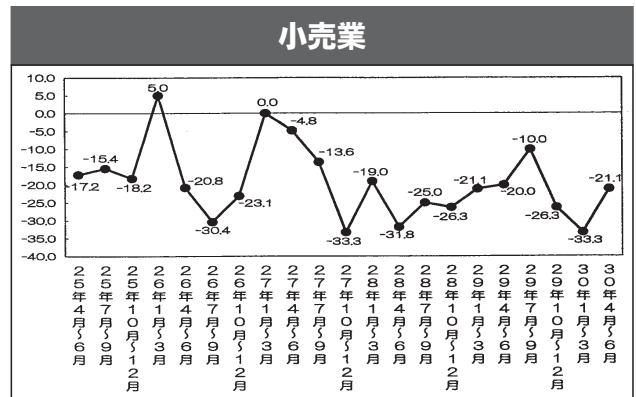
■小売業

業況DI値は▲21.1となり、前回調査（▲33.3）から12.2ポイント改善、平成29年度第1四半期（▲20.0）から1.1ポイント悪化した。

客単価の上昇によって業況DI値は改善しているものの、依然としてマイナス値を脱していない。書籍販売業では、デジタル化が進んでおり、書籍の売上が減少しているとの声が聞かれた。

来期見通しについて、宝石販売業では、市内の販売店の減少が加速しており、市外の百貨店へ顧客が流れているので、顧客確保のために市内の活性化が必須との声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「従業員の確保難」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成30年4～6月

業況 ▲21.1 ↓

【来期見通し】平成30年7～9月

業況 ▲33.3 ↓

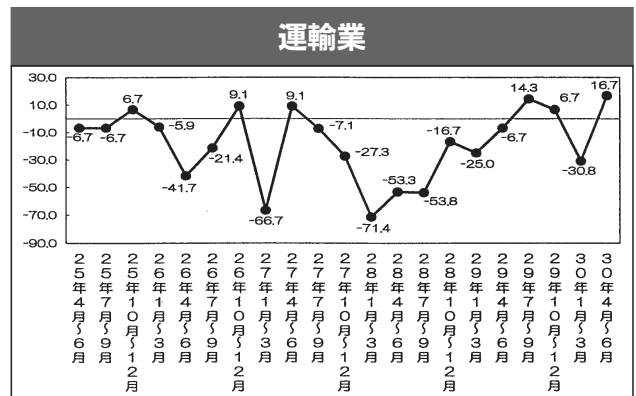
■運輸業

業況DI値は16.7となり、前回調査（▲30.8）から47.5ポイント改善、平成29年度第1四半期（▲6.7）から23.4ポイント改善した。

運送量の増加によって業況DI値は改善した。一方で、人手不足による業務の消化不良が多く、売上増加につながりにくいとの声も根強く聞かれた。

来期見通しについては、原油の価格高騰の影響で費用が増加傾向にあり、来期の収益が見込めず先行きは不透明との声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「運送単価の低下・上昇難」、「従業員の確保難」、「人件費以外の経費の増加」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成30年4～6月

業況 16.7 ↑

【来期見通し】平成30年7～9月

業況 8.3 ↓

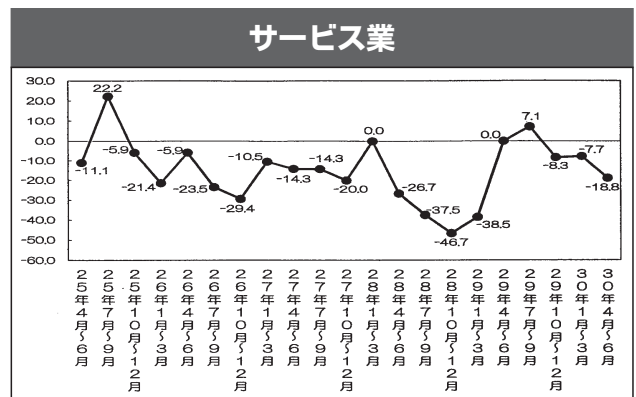
■サービス業

業況DI値は▲18.8となり、前回調査（▲7.7）から11.8ポイント悪化、平成29年度第1四半期（0.0）から18.8ポイント悪化した。

旅行業では、消費者ニーズの変化が加速し、収益を見込める期間が短くなっているとの声が聞かれた。

来期見通しについて、人手不足だけでなく、販売単価の低下や人件費の増加などの影響で安定した収益が期待できず、先行きが不安との声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「従業員の確保難」、「消費者ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。



【今期の景況】平成30年4～6月

業況 ▲18.8 ↓

【来期見通し】平成30年7～9月

業況 0.0 ↓